



## 卒業生の皆さんへ

岩手県立農業大学校 校長 下村 功

本校を旅立つ47名の皆さん、卒業おめでとう。ご家族の皆様方にも、心からお祝いを申し上げます。

卒業後は、自家就農や農業法人等への雇用就農で農業生産に携わる者、農業団体や農業関連企業へ就職する者、食品の加工販売や花店等のサービス業に就職する者など、ほとんどの人が本校で学んだ知識や技術を生かし、農業に係わりのある道に進みます。皆さんのような将来の地域農業・農村を担う多くの若者を送り出せることは、農業大学校として大きな喜びです。今、日本の農業では、益々のグローバル化の進行やICTをはじめとする新技術の発展、人口減少社会の到来、地球温暖化への対応など、取り巻く環境が日々変化し複雑化する中で、新たな農業・農村のあり方が模索されています。地域では、若い皆さんの発想や行動力に大きな期待を持っています。

社会に旅立つ皆さんには、これから様々な課題が数多く降りかかってきます。本校で学んだ知識・技術・経験は貴重な財産ですが、社会で実践していくためには、さらに勉強し、研鑽を積むことが必要です。

本校で学んだ知識・技術を基礎として、卒業研究で習得した課題解決手法や数多くの事例研究で得た情報分析力を駆使し、そして共に学んだ友人や志を同じくする人達とのネットワークを生かし、皆さんの夢と地域の将来のために果敢にチャレンジしてください。チャレンジをすれば失敗もありますが、失敗は新たな発見の種となります。常に前を向いて立ち上がりチャレンジを続けてください。その先には、輝く未来があります。

卒業する皆さんが、地域の担い手として活躍し、輝く未来を築くことを祈念し、卒業する皆さんへの激励とします。

## 平成27年度卒業式が行われました。



卒業式の様子 (3/8)



答辞を読む小泉花衣さん(農産園芸学科)





# 卒業生からのメッセージ



【農産経営科】 私たち農産経営科は個性豊かなメンバー11人の集まりでした。学業や寮生活では協力し合い、これから社会に必要な知識と沢山の思い出を作ることが出来ました。また、担任を務めて下さった白木先生、日影先生。そのほか多くの先生、教授の皆様には、勉強や実習を通して色々な事を教わりました。お世話になった皆さんありがとうございました。



【野菜経営科】 私たち野菜経営科の15人は、それぞれが個性豊かでどんな時でも笑顔が絶えることはありませんでした。野菜経営の仲間と農大で多くの事を学び、2年間の寮生活を楽しく過ごすことが出来たのは、一生の思い出になると思います。また、座学から実習に至るまで、沢山の先生方のお世話になりました。2年間本当にありがとうございました。



【果樹経営科】 多くのことを学び、それぞれが成長できた2年間でした。果樹経営科は、4人と少数でしたが、互いに協力しながら、様々なことに取り組んできました。伊東先生をはじめ、多くの先生方から御指導いただき、たくさんの知識を身につけることができました。この2年間で学んだことを、それぞれの分野で生かしていきたいと思えます。



【花き経営科】 私たち花き経営科は花のようにそれぞれの個性が豊かでした。今になって2年という月日が短く感じます。5人という少人数ではありましたが、この2年間、毎日が喜怒哀楽に、実習や当番、座学に励むことができました。この2年間で出会い、お世話になった先生方、いままでありがとうございました。私たちが5人はそれぞれ自分で決めた道を歩いていきます。卒業後もここで過ごした2年間を忘れません。お世話になりました。



【酪農経営科】 酪農経営科は人数が少なく、当番がすぐに回ってきつらいときがありましたが、その分、みんなで楽しく笑って過ごせたと思います。気が付いたら2年がたち、それぞれ別の進路に進みますが農大で学んだことを生かしてこれからも頑張っていきたいです。先生方、お世話になったみなさん、ありがとうございました。



【肉畜経営科】 肉畜経営科は、毎朝・夕の当番作業や実習、座学などを2年間がんばりました。実習は大変な作業もあり、辛くてめげそうになることもありましたが、お互いに協力しわいわい楽しい雰囲気で行うことができました。卒業後にはそれぞれ辛い厳しい場面に遭遇することもあるかもしれませんが、農大で修得した知識やメンタルの強さを生かし乗り越えていきたいと思えます。

## 卒業を祝う会

3月8日(火) 卒業式終了後に農業大学の食堂で卒業を祝う会が開催されました。卒業を祝う会は、父母の会役員が思い出の詰まった学び舎で、お世話になった先生方に謝恩の意を表したいと企画したものです。短い時間ではありましたが、卒業生は先生方との2年間の思い出に感慨もひとしおの様子でした。



「父母の会」  
小泉会長の挨拶

# プロジェクト学習の成果を発表!!

本校教育の大きな柱の一つであるプロジェクト学習の成果を発表する卒業研究成果全体発表会を12月24日（木）に本校大教室で開催しました。

全体発表会では、科別発表会を経て選ばれた本科生12名が1年間の研究成果を発表し、中央農業改良普及センターの佐々木仁所長ほか6名の審査員により厳正な審査が行われ、下記のとおり最優秀賞1名、優秀賞2名が決定しました。



## 最優秀賞

ブドウの長期販売に向けた貯蔵方法の検討  
果樹経営科 松井詩穂子

### 1 課題選定理由

我が家では水稲とブドウとリンゴを栽培している。ブドウの収穫と販売時期は水稲とリンゴの管理作業が重なる。そこで、ブドウを貯蔵し販売時期を遅らせることが出来れば、スムーズに作業が移行できる。

しかし、ブドウは長く保存すると穂軸の褐変が生じるなど、商品価値が著しく低下する。このことから、ブドウの長期貯蔵方法について検討する。

### 2 実施方法

#### (1) 包装資材

MA包装、不織布+ダンボール、果実袋を使用

#### (2) 貯蔵温度

7℃（慣行）と-1℃（氷温）に設定

#### (3) 吸水処理

花卉で使用されている給水ポット（商品名：フレッシュホルダー）を使用し、穂軸を給水ポットに挿し込む

いずれも貯蔵後の果実品質を調査する。

### 3 結果

(1) 糖度は、穂軸吸水処理区で試験開始時の糖度より高まった。

(2) 硬度は、穂軸吸水処理区が高かった。

(3) カビの発生は、MA包装区が多かった。

(4) 果実のしわ、穂軸のしおれは氷温区が少なかった。

### 4 考察

通常販売用のブドウはコストの安い穂軸吸水処理で貯蔵する。

氷温貯蔵は、貯蔵後の房の状態が良いことから、ギフト販売用に導入できると考えられる。



## 優秀賞

夏秋いちごの高温対策及び培地、苗質による収量の影響  
野菜経営科2年 佐藤邦春

### 1 課題選定理由

夏秋イチゴは夏の高温によって花芽の分化・発達が抑制され収量が減少するという課題がある。そこで、高温対策としてマルチ資材やクラウン冷却を使用して、収量及び商品果向上を目指し、高設栽培での培地量、苗質による収量への影響も検討した。

### 2 実施方法

#### (1) 地温低下技術

##### ア マルチ資材

白黒マルチ、タイベックマルチ

##### イ クラウン冷却

16～18℃地下水使用。チューブにピニールホース使用。24時間かけ流しで4月27

日～9月25日まで実施。（供試品種：エラン）

#### (2) 培地量

1株当たり3L区と6L区

#### (3) クラウン径

クラウン径縦横合計1.9mm以上の太い区と以下の細い区

(2)(3)の供試品種は夏あかり

いずれも収量・品質調査を行った。

### 3 研究結果

(1) 慣行の白黒マルチよりタイベックマルチの方が地温低下した。タイベックマルチにクラウン冷却を組み合わせた区が最も地温が低下し収量が多くなった。

(2) 培土3Lより培土6Lの方が各試験区で収量が多かった。

(3) 1株当たり培土6L+クラウン太い区で最も収量が多く収益性が高かった。

### 4 考察

夏秋いちごを栽培する場合、1株当たり培地6Lの高設ベンチにクラウン径2cm以上の苗を定植し、タイベックマルチにクラウン冷却を併用することで高い収益が得られる。





## 優秀賞

海水利用によるブランド米を  
目指して  
農産経営科2年 日山将太

### 1 課題選定理由

海水を水稻栽培に使用すると、甘みや粘りなどの食味向上した米を栽培できると知り、これまで農業大学校が営農支援に取り組んできた広田地域のために、地域資源である海水を使用したブランド米確立を目指したいと考えた。

### 2 実施方法

#### (1) 食味向上効果

出穂後に250ℓ×2回海水施用

#### (2) 省力性

海水の水口施用

- (1)(2)は陸前高田市広田町で実施
- (3) 内陸における海水類似資材  
海水類似資材（ミネラル還元塩）の効果  
（農大圃場で実施）  
いずれも水稻品種は「ひとめぼれ」

### 3 結果

- (1) 広田町、農大とも、海水施用により、米の苦土カリ比（Mg/K等量比）が向上し、食味官能調査の評価も高まった。
- (2) 広田町産の米は農大産より玄米中Mg濃度が高かった。
- (3) 施用方法を検討すると、海水の水口施用は労働時間が少なく実用性が高い。

### 4 考察

多くの消費者の方から海水を使った米は美味しく、また食べたいという声が寄せられた。継続して実施販売することで知名度が向上し、ブランド米確立が実現できると思われると考えられる。

## 東日本農業大学校等プロジェクト発表会

1月21～22日、山形県鶴岡市の山形県立農業大学校を会場に標記大会が開催されました。

本校からは11月に開催された校内意見発表会において最優秀賞、優秀賞を受賞した野菜経営科2年の内藤美緒さん、酪農経営科2年の細野清範さん、12月に開催された卒業研究成果発表会において最優秀賞を受賞した果樹経営科2年の松井詩穂子さん、優秀賞の野菜経営科2年の佐藤邦春さん、農産経営科2年の日山将太さんの5名が臨みました。

もてる力を十分に発揮し、堂々と発表してきました。



## ～ 今後の主な行事予定 ～

- 4月 6日（水）始業式
- 4月 7日（木）新入生入寮
- 4月 8日（金）入学式
- 4月11日（月）・12日（火）新入生ガイダンス
- 4月13日（水）学生健康診断
- 4月20日（水）消防訓練
- 4月28日（木）全校ガイダンス・環境整備
- 5月11日（水）選挙制度ガイダンス
- 5月13日（金）農業大学校説明会
- 5月25日（水）学生自治会総会
- 5月26日（木）～27日（金）東日本農大等親善球技大会（会場：宮城県）
- 6月 3日（金）父母の会総会・保護者懇談会
- 6月 7日（火）部長講話
- 6月 8日（水）学生自治会スポーツ大会
- 6月22日（水）進路支援セミナー



正門から続く桜並木